



学校だより

佐渡市立両津吉井小学校

令和4年6月1日

<6月号>

郷土のよさを実感し愛着と誇りがもてる子に

校長 後藤 修治

新緑が美しい季節となりました。校庭を見渡しなが、木々の美しさに感動し、改めて両津吉井小学校の環境のすばらしさを感じています。

さて、佐渡市の学校教育の重点の一つに、「郷土愛を軸にしたキャリア教育の推進」が掲げられています。佐渡の自然・歴史・文化等についての学習（佐渡学）を通して、佐渡への愛着と誇りをもった児童生徒の育成を目指しています。このことを受け、当校においても「ふるさと学」を中核として、「郷土のよさを実感し愛着と誇りをもつ子」の育成に取り組んでいます。

両津吉井小学校の「ふるさと学」の一つに4・5年生が学ぶ「能」があります。学習のスタートに当たり、毎年、同窓会長の近江幸次さんから「能を学ぶということ」と題してお話をいただいています。今年も先月19日にお話しいただきました。お話の中で、佐渡は、能が庶民の娯楽の一つであったこと、能を観るだけでなく演じて楽しむ地域であったこと、昔は島内に200もの能舞台があったことなどを教えていただきました。両津吉井地区にもいくつかの能舞台があり、現在も三つほど残っているそうです。その一つである潟端能舞台で毎年、4・5年生が能の発表をさせていただきます。

近江さんは、能を学ぶことについて、「佐渡に生まれたからできること」とおっしゃっていました。わたしは、能を学ぶことは佐渡を学び、佐渡への愛着と誇りをもつことにつながると考えています。そして、「ふるさと（佐渡）への愛着と誇りをもつ」とは、ふるさと（佐渡）について、他に伝えることができる、語るができることだと考えています。例えば、大人になり佐渡を離れた時があった場合、その土地で出会った人に、能について語ったり、謡ったり、舞って見せてあげられたりしたらどんなにすばらしいでしょう。

先日、佐渡おけさの指導者としてお越しいただいた土屋美津江さんは、子どもたちには佐渡おけさについて、「佐渡で生まれ佐渡で育ったからには踊れるようになってほしい。」とおっしゃっていました。能と同様に、「佐渡おけさ」について語ったり、謡ったり、踊ったりできることが、佐渡への愛着や誇りをもつことにつながると思います。

両津吉井小学校では、その他、ふるさと学として、鬼太鼓、吉井茶、トキ、加茂湖等をテーマとした学習を行います。ふるさと学を通して、佐渡や両津吉井地区に愛着と誇りをもてる子どもを育成していきます。

今年度の鬼太鼓の学習について（お知らせ）

これまで、1～3年生が行ってきた鬼太鼓の学習について、今年度からは3年生のみが学習します。地区ごとに分かれ、鬼太鼓の舞いを稽古することが児童数の偏り等により難しくなってきたためです。3年生は、総合的な学習の時間として、鬼太鼓についてその歴史や地区ごとの舞いの違いなど調べ学習を中心に行います。